

2024年夏季特集

“おいしい空気”で満たされる会社に

アトミクス 代表取締役社長 宮里勝之氏

塗り床材の品質に「絶対的な自信がある」と宮里勝之社長。コロナ禍で止まっていた工場の改修工事が始まって塗り床材の動きが活発化、勢いが出てきた。一方、ベアを始め社内の制度改革にも着手、同好会支援のようなユニークな取り組みも始めた。“おいしい空気”が流れる会社をつくり、社員と会社の成長サイクルを目指す。



——貴社が得意とする塗り床材に動きが出ているようですね。

「コロナ禍で止まっていた工場の営繕工事が出てきており、床の改修工事に伴う需要が活発化していますね。塗り床材は当社が絶対的な自信を持つ分野ですので、期待が高まっています」

——絶対的な自信ですか。

「ご存知のように、工場の床は使用環境がハードです。それだけに塗り床材の製品としての良し悪しが露呈しやすい分野でもある訳で、その市場において、品質本位で支持されているとの自信です」

——もう少し具体的にお願いします。

「工場の床は常に水が流れていたり、薬品に浸されたり、フォークリフトの往来が激しかったり、重量物の落下に耐えたりと使用環境がとてもハードです。まずはそうした条件に耐えられる物性でなければなりません。また改修となると、例えば油が浸み込んだ下地への密着性を確保することはハードルが上がります。施工後すぐに不具合が出る

など製品の差が出やすい。その中で、施工業者様が『この現場はちょっと手強いぞ』と判断した激しい現場ほど当社の製品を選んでくれており、品質本位での市場の支持を実感しているということです」

——そうした製品面での優位性をどのように築いてきたのですか。

「他社と比べてウルトラCの秘策があるとかそういうことではありません。やはり地道な活動の積み重ねでしょう。営業や技術の社員が足繁く現場に通い、お客様と一緒に問題・課題を共有し、解決してきた長年の努力の結果です。仕上がり品質、施工性、クレームの少ない手離れの良さなど、お客様目線での改良・改善を貫いてきたことが、当社製品の評価につながっていると思います。塗り床という難しい現場で『頼りになる』との評判を築くことが当社の付加価値戦略ですし、施工店様、販売店様にその評判がもっと広がるよう活動し、市場でのプレゼンスを確かなものにしていきたい」

——工場の営繕関係では、屋根の改修需要も動いていると聞きます。

「ええ、特に遮熱塗料の引き合いが増えていますね。猛暑日が続くなど暑くなる一方の環境下で、空調コストの削減と職場環境の改善はどの企業にとっても優先課題になっています。遮熱塗料も含め、工場の屋根改修の場面で強みになっているのが、屋根の調査・診断システム『AS（アトムサーベイ）システム』です」



——ドローンによる屋根の調査・診断システムですね。

「従来のように安全対策を施し、人が屋根の上で調査するのに比べて手間とコストが軽減、心理的な負担も軽くなるから利用しやすい。既に400件以上のドローンによる調査・診断実績があり、屋根用塗料、遮熱塗料の販売に貢献しています。また、先ほどの塗り床材の実績が屋根に広がるあるいはその逆パターンなど互いの波及効果が工場営繕分野の市場性が高まっています」

——市況が好転しているようですね。話は変わりますが、社会全体で賃上げの気運が高まっています。その点についてはいかがですか。

「賃金に関しては昨年、全社的なベースアップを行いました。配分的には若年層への比重を厚くする一方で、定年を60歳から65歳に引き上げ、全社的に生涯賃金が上がるよう制度変更を行いました。ただ、その他にもやるべきことは残されています」

——例えばどのようなことですか。

「教育システムの整備ですね。当社では社員の声が経営に反映しやすいよう、アンケートや提案制度を設けてい

るのですが、その回答が増えている意見です。新入社員の採用面接でも最近よく質問されますね」

——そのような声も上がってきているのですか。

「社員教育のプログラムを用意していないわけではないのですが、もっと体系化して社員が実感できるものにする必要があります。その会社で何を学び、どのようにキャリアアップできるかといったことへの働く側の意識は大きく変わっており、整備を進めなければなりません。その一方で、カジュアルなところでは、昨年と同好会支援活動を始めました」

——どのようなことですか。

「どんな活動でもいいので2人以上集まって同好会を結成すれば、それに対して会社として補助金を出す仕組みです。今のところゴルフやウォーキング同好会のような一般的な活動が多いのですが、若手・中堅・年配が混じって構成されたサークル、営業所や同じ性別同士で構成されたサークルなど、部署や世代をこえて活動を楽しんでいるようです。“おいしい空気”が流れる会社にするための一環ですね」

——おいしい空気とは。

「言い換えれば、会社の中の空気感といったことでしょうか。形があり、目に見えるものではありませんが、社員のモチベーションに大きく働きかける部分です。仕事への前向きな姿勢、社員間の活発なコミュニケーションや議論、そして今課題になっている人材の定着といった面でも、その会社の空気感は最も重要かもしれません。会社の中が“おいしい空気”で満たされていれば、健やかで伸びやかな社員が育ち、会社に成長をもたらします。そうした回報を目指していきたい」

——ありがとうございました。